コロナ禍の中からの成長

教育長職務代理者　萩田（はぎた）　均（ひとし）

　令和2年1月から、新型コロナ感染症の問題が世界中に広まり、私たちの生活や社会に大きな影響を与えています。学校や保育園、社会教育の場面、各種イベント等社会生活に大きな制限がかかっています。新しい社会生活、ソーシャルディスタンスを取りながら一歩一歩前に進んできていますが、大変な事態であることは事実です。

　これまで教育委員として多くの学校行事に参加させていただきました。本年度は縮小中止が多かったのですが、参観日では真剣に授業に取り組む姿勢に感心させられ、入学式、卒業式での感激、文化祭、音楽会、運動会では多くの感動をいただきました。県郡教育委員会の様々な研修や行事に参加させていただき、他地域の取り組みや姿勢を勉強させていただき、感心し参考にして下諏訪での取り組みに生かすため委員会で検討しました。

　下諏訪においては地域の方の読み聞かせの活動、防災教育や地域の方々との課外授業や力士との交流、諏訪湖浄化や環境問題に取り組む真剣なまなざし、下諏訪の歴史遺産に触れ、他では得難い経験をしている姿に、下諏訪の子供と大人、地域の方々との交流により子供たちが成長してきていることに、大きな下諏訪力を実感してきました。

　現在のコロナ禍の中において今起きている事態も、過去においてもこのような不意に降りかかることがらを、人間は何度も何度も経験してきました。その都度、私たちは生活スタイル、衛生環境や教育状況を変化させて、それらを乗り越えてきています。これからを如何にするかを思うとき、同じ様なことが降りかかっても乗り越えるための変化を準備して、始める一歩にしたいと考えます。特に教育の場面において、決して無視できない多大な影響を受けました。

　現在急ピッチで進めているICTによるリモート授業やタブレットの活用、学校教育でのコンピューターの利用により、様々な感染症の予防や、どんな状況においても平等に教育を受けられる機会を作り、新しい環境に変えていきたいものです。

　人は家族や学校、社会の中で成長してきました。私たちにとって、これからもまた成長進化を続けていくために、コミュニティは大切にしていかなくてはならないことの一つです。成長のためアプローチの方法や仕組みを変えながら、新しい社会環境に挑戦していきたいと思います。その中で下諏訪の子供たちの大いなる成長を手助けし、一緒に成長できればこの上ない喜びと存じます。

生涯学習
No.560
かおり高い文化のまち
発行　下諏訪町教育委員会
編集　生涯学習編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.shimosuwa.lg.jp

■諏訪湖博物館1月の休館日は、1・2・3・4・12・18・25日です。

コロナ禍でのPTA活動

下諏訪町PTA連合会長　清水（しみず）　義樹（よしき）

　昨年、日本国内でも発生した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に全国へと拡大し、長野県でも多くの感染者や濃厚接触者が出て、保護者や子供たちの学校生活に大きな影響を及ぼしました。今までに無い未曾有の状況下で、PTA活動をどうすれば良いか、本当に悩みました。それは、今までPTA活動のほとんどを、仕事を理由に妻に任せており、自ら積極的に参加するということがほとんど無かったため、PTA活動の理解不足によるところもあります。そんな時に助けていただいたのは、各学校のPTA会長さん、副会長さんたちでした。一緒に悩み、一緒に考えていただきました。

　4月の早いタイミングで、秋のPTA連合会主催の子育て講演会の中止について決めることができたのも、各校役員の皆さんとの協議の中で、私の考えを理解いただき、方向性についても受け入れていただいたからに他なりません。子育て講演会を楽しみにされていた皆様には大変申し訳ございませんでした。

　中止を検討していく中で考えたことは『親の都合で子供たちにリスクを負わせることはできない』ということでした。長男が中学校の卒業を控え、高校への進学に向けて準備をしている時期に学校が休校となりました。私たち夫婦にとっても初めての子供の進学で、右も左もわからない中、学校の友達とも会えずこのまま卒業を迎えるのは寂しいとこぼしていたのを聞いたからです。

　大人は仕事の都合や、行動範囲も広いためいろいろな方との接触があります。業種にもよりますが私の仕事は人と直接会って話をすることがとても多い仕事のため、普段から感染症予防には大変気をつけています。そのような中で、講演会の講師を招聘しお話を聞くとなると相応のリスクを覚悟しなければなりませんし、状況により講師が来られなくなることも考えられました。もしかしたら、11月にはコロナも収束しているのではないかと楽観的な見方もできましたが、万が一の場合に、また学校が休校になることは絶対に避けなければならないと思いました。

　親の感染は子供のリスクとなり、学校生活に直結します。もちろん、通常生活の中でも感染リスクが無いわけではありませんので、普段からの注意は必要ですが、極力リスクは減らすことを最優先させていただきました。来年こそ子育て講演会が開催できるように微力ながら応援させていただきたいと思います。

　また、今年は小学校両校がそれぞれ50周年を迎え、9月に記念式典などを計画されていました。運動会や音楽会もコロナの影響で例年と比べて大きく様変わりしました。生徒と保護者が一堂に会することなく、見学する保護者の人数制限や入れ替え制など、新型コロナウイルス感染症に対する記念式典実行委員会の委員の皆様や先生方には、コロナ禍における対応や日程変更など本当にありがとうございました。

　私は、今年PTA連合会長を受けさせていただきました。PTA活動を通じてたくさんの方に出会うことができ、子供たちのことを本気で、真剣に考えていただいていることを知ることができました。

　この1年は本当に大変でしたが有意義な1年になりました。最後にまとまりませんが、今年一緒に役員をやっていただいた各学校の役員の皆さん、子供たちのために例年以上のご苦労をいただきました先生方、1年間頑張って学校へ通った子供たちに、『ありがとう』の言葉を伝えたいと思います。

50周年記念運動会でのくす玉

■下諏訪総合文化センター1月の休館日は、1・2・3・4・5・12・13・19・26日です。

❖ 成人を迎えての決意 ❖

成人を迎えて

菅野町　溝口（みぞぐち）　宗一朗（そういちろう）

恥ずかしい話、この原稿のお話を頂くまで今年に成人を迎えるという自覚がなかったのだが、ありがたいことにこのような機会に恵まれた。改めて、成人とは何なのかを自分なりに考えてみた。

おそらく人生の中で「自分は人間として完璧だ」と思う瞬間は一生来ないだろう。だから、「成人」という概念はあくまで便宜上のものであって、二十歳以上ならば「人」として完「成」というわけではないように思う。一生未完成、ともいえるかもしれない。しかし、形式上であっても「成人」になった私達は、国家の一員として世の中を作っていく義務を負うことになる。世の中を作っていくためには、何かに対して「賛成」「反対」の意見を持つことが不可欠だ。

しかし、コロナ騒動の中で、自分の意見を持つことの難しさを感じた。偉い人は「ウイルスは危険だ」と言ってみたり、「大して危険ではない」と言ってみたりする。感染拡大の際に「対応が中途半端だ」と非難の声が上がったと思えば「結果オーライだった」と振り返る人も出てきた。知らなければならないことがたくさんあるし、知れば知るほど自分の意見が持ちにくくなっていく。でもそこで「子どもだから分かりません」とはもう言えない。なぜなら肩書の上ではもう「成人」なのだから。

未完成な人間なりに自分の声を発していく覚悟を持つこと、それが「成人」ということだと私は思う。

成人を迎え

西赤砂　吉木（よしき）　涼香（すずか）

２０２０年、今年の主な出来事といえば、やはり新型コロナウイルスの流行であり、世の中は大きな変化を余儀なくされました。私自身も、大学の講義がオンライン化したため、一人暮らしを一時中断し、この下諏訪町の実家で暮らしています。

一体誰がこの事態を予測できたでしょうか。

今までもずっとそうであったし、わかりきったことですが、この先、良くも悪くも予測できないことの連続なのだと思います。どちらかといえば、こうはならないでほしかったという方向へ進んでしまうことの方が多く起こる気さえします。いや、残念ながらこの予測に限ってはきっと的中してしまうのでしょう。凡庸な人間ゆえ穏やかな生活を望みますが、それは仕方のないことです。

しかし、〝どんな状況であっても、それを愉しめる〟そんな大人はかっこいい。

正直なところ、二十歳になったからといって、私は人に語れるような夢も計画も持ち合わせていません。案の定漠然とした内容で恐縮ですが、このコロナ禍の時代、二十歳になった今だからこそ、これが私の考える理想の〝大人〟であり、目標としたい姿です。気を張り詰めすぎず、些細なことにも目を向けて様々な捉え方ができるような、余裕をもった人、そういう意味です。この余裕は、日々の行動の積み重ねから生まれてくるのかもしれません。行動とは…考え出したらキリがありませんね。

とりあえず、〝気を張り詰めすぎず〟歩を進めていければという心持ちでいます。

■下諏訪体育館の１月の休館日は、１・２・３・４・５・12・13・19・26日です。

❖ 成人を迎えての決意 ❖

有難うという気持ち

東町上　武居（たけい）　千晶（ちあき）

今年二十歳という人生の節目を迎え、晴れて私は成人となった。今まで関わってくれた全ての方々に感謝する。

現在、大学進学を機に私は都会で一人暮らしをし、日々支えてくれている沢山の方々の有難さを実感して生きている。同時に働き、家事をし、そして勉強をするという社会人の一面を経験している。実際大変であるが、やりがいを感じていることもある。アルバイトだ。私は将来どんな職業に就きたいのかを全く決めていない。そこで、この四年間で様々な職業のアルバイトを経験し、視野を広げ、将来の職業選択の参考にしようと考えている。

私は成人を迎えるにあたり、過去の自分の選択を後悔する気持ちを、未来を生きる糧にすることの出来る人間でありたいと思う。変えることが出来るのは未来のみであり、過去は変えられない。だからこそ私は少しでも明るい未来を築けるように、過去の選択を悔やむその時間を未来のために費やし、これからの人生を歩んでいきたい。

まだ、成人したばかりではあるが、年齢を重ねる度に日々支えてくれている方々の有難さというものを段々と理解出来るようになってきた。沢山の方々が私を支えてくれている。まずは、一歩踏み出してみることにする。

二十歳

社東町　井出（いで）　祥子（しょうこ）

私が二十歳を迎えるのは、成人式から一ヶ月程経った頃だ。私は現在、まだ十九歳である。周りの友人達が順に二十歳になり、ＳＮＳにお酒で乾杯している姿が増え、羨ましい気持ちと私は未だ十代という思いの狭間にいる。そんな中、この原稿執筆の依頼を頂いた。二十歳という節目を迎えることに何となく目を背けていた私は、やっと新成人となる実感がわき始めることとなった。

憧れの都会での生活は、もうすぐ二年が経とうとしている。今まで過ごした地を離れたからこそ、見渡せば山があり、夜は綺麗な星空が見え、美味しい澄んだ空気や水が当たり前にある、自然溢れる下諏訪町が故郷である幸せに気づくことができた。騒がしい空気にのまれながら日々生活している今、二十年の月日は早いものだと感じる。この二十年を思い返すと様々な思い出が蘇ってくる。小中学校では今でも支えてくれるかけがえのない友人と出会うことができ、高校ではボートに打ち込み、喜びや楽しさ、辛い思いを仲間と共有する貴重な経験ができたからこそ今の自分があると思う。

二十歳を目前にして、今一番感じることは、家族をはじめとして私の人生に関わってくれた方々への感謝の気持ちである。十年前、二分の一成人式をやった頃に想像していた二十歳の私とは全然違うが、私は今の自分が最高に幸せだと断言できる。今後も感謝の気持ちを忘れず、成人という自覚と責任を持ち、社会に、世界に踏み出したいと思う。

■下諏訪図書館の１月の休館日は、１・２・３・４・８・12・18・25日です。

簡単でおいしいレシピを東山田の増澤さんに聞きました

炊飯器で簡単チャーシュー

〈材料〉
1　豚かたまり（1パック）300g～500g
2　にんにく　1片・・・すりおろし
3　しょうが　20g・・・すりおろし
4　しょうゆ　100ml
5　はちみつ　大さじ5
6　酒　　　　100ml
（2～6：漬けダレ）

〈作り方〉
①漬けダレ（2～6）を小鍋で煮立てて冷ます。
②豚かたまりと漬けダレをジップロックに入れ空気を抜く。
③お湯を沸かす。
④炊飯器の底に皿を置き、その上にジップロックに入れた豚のかたまりを置く。その上に重しとなる皿を乗せる。
⑤④の上の皿めがけて熱湯を皿がかぶるまで入れる。
⑥すぐふたをして保温で8時間おく。
⑦途中でけっしてふたを開けないようにし、8時間で取り出す。

柿マスカルポーネ和え

〈作り方〉スライスした柿とマスカルポーネを黒コショウ、レモン汁で和える

〈材料〉　4人分
1　柿　1個・・・スライス
2　マスカルポーネ（イタリアのフレッシュタイプのチーズ）　100g
3　黒コショウ　少々
4　レモン汁　少々

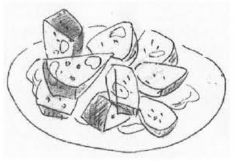
柿プリン

〈材料〉　2個分（150mlカップ）
1　柿（完熟）　200g
2　牛乳　1/2カップ
3　砂糖　小さじ2
（1～3：プリン）
4　生クリーム　1/4カップ
5　砂糖　大さじ2
（4～5：飾り用）

〈作り方〉1・2・3をミキサーに入れて滑らかにし、器に入れて冷蔵庫で冷やし固める。固まらない場合は、ブランデー、生クリームを入れて柿スムージーに。

油で揚げない大学イモ

〈材料〉　4人分
1　サツマイモ　400g～600g（大1本）皮ごと乱切り
2　油　　60g
3　砂糖　30g
（2～3：合わせておく）
4　しょうゆ　小さじ2
5　ごま　適宜



〈作り方〉
①フライパンに合わせた油、砂糖、サツマイモを入れる。
②火をつけてふたをして、中火で5分、ひっくり返して10分焼く。（焼目をつける）
③出来上がったらボールにとって、しょうゆ小さじ2を入れ、ごまをふりかける。

秋宮スケートリンク「氷上祭」のお知らせ

日時 令和３年１月24日（日）
午前９時～正午まで（午前８時30分～受付開始）
※悪天候またはリンクの状態が万全でない場合は中止とします。
中止の場合は7時30分にメール配信でお知らせします。

場所 秋宮スケートリンク

持ち物 帽子、手袋、マスク、スケート靴
※スケート靴はなくてもOK!
帽子、手袋、マスクの着用は必須です。

メール配信システムはこのＱＲコードを読み取ったリンク先の案内に従い登録してください。

参加費 無料

その他 駐車場がありませんので徒歩でご来場ください。
新型コロナ感染症の拡大状況により中止する場合があります。

氷上ボウリング

下駄スケート体験

ほかにも、障害物競走など楽しい種目が盛りだくさん！

ぜひご参加ください♪

問い合わせ　下諏訪町教育委員会 教育こども課 スポーツ振興係（下諏訪体育館内・火曜休館）
電話0266−27−1455　E-Mail sports@town.shimosuwa.lg.jp

スマホを手にして

1年前のこの時期に、このコロナ禍を想像できた人がどのくらいいたでしょうか。あたり前の日常があたり前でなくなる事態。そんな中で、様々なことを改めて考える機会を与えられたようにも思いました。今から30～40年前、パーソナルコンピューターが生まれる前までは、コンピューターといえば大型計算機で一部の専門家が使うものでした。そこに、モニター画面を見ながらプログラムができ、すぐにプログラムが実行できるパソコンが登場しました。画期的でした。ネットワーク環境もインターネットが普及するまでは様々な制約があり貧弱なものでした。そのことを思うと本当に隔世の感があります。

スマホの時代となりAI化した機器が私たちの生活の中の隅々に入り込むようになりました。スマホ決済、お掃除ロボットなんて未来の話と思っていたら現実のものになりました。考えたくありませんが、AIに家計をはじめ生活を管理されたり、人の価値が数値化されて評価されたりする時代も来るのかもしれません。急速な発展を遂げている情報技術と人との関わりは今後どうなっていくのでしょうか。人は、他の動物と異なり早産で生まれ、一人前になるのに10年以上かかるといわれていて、良くも悪くも育つ環境の影響のもとで成人すると考えられています。遊びを例にとれば、子どもたちは、以前であれば身体や五感を精いっぱい働かせて鬼ごっこをしたり、木登りをしたり、虫取りに興じたり、生き物の世話をしたり、枕元で母の読み聞かせに耳を澄ましたりして過ごしてきました。そのことを通じて健全な成長が促されてきた面があります。

現在それが、スマホやテレビゲームなどにとって代わろうとしています。楽しくて便利でうまく使えば様々な可能性が広がるように思えますが、逆に心身へのマイナスの影響を心配する声もあがっています。使い方しだいといえるかもしれません。使い方しだいということであれば、スマホやAIに任せられることと任せられないことがあると思います。そこの見極めが大変重要になります。私たちの生活全般にわたり、その線引きをどこにすればよいか・・・。そこの議論があまりなされないままでいることが気がかりです。情報技術の発展の裏でいま問われているのは、私達がめざす「社会のありよう」や「人間らしさ」ではないかと思います。

（杉山　清）